



くにちゃんブログ (ジャンル：プレイバックシアター) 時系列

2006/08/25～2010/09/09 (逆順)

橋本さんのお考えが書かれているものを抜き出しました。

主催の方の言葉や、お仲間の言葉、参加した方の言葉、削除するのが惜しいものがたくさんありました、どれを残してどれを削除するか…迷いましたが、こちらの判断で、どうしても削れないものを除き、橋本さんの文章だけに絞りました。

橋本さんのお考えのかかれていない案内は案内自体省いています。

重複している文章は、古いほうを残しています。

2011年1月 吉橋 編

シアター・ザ・フェンス on ヒトリ主義 Night2010 開催間近！ 2010/09/09 15:51.....	4
応用心理学会で試みるプレイバックシアターWS のご案内 2010/09/08 15:59.....	4
シアター・ザ・フェンス in 孔子の里（佐賀県多久市）WS&公演のご案内 2010/09/02 00:10.....	5
「明治神宮・お祓いとプレイバックシアター」クラスのご案内 2010/09/01 00:07.....	6
應典院プレイバックシアター、いよいよ来週火曜日！ 2010/08/26 14:14.....	6
アートルीडァーズ・ミーティング・演劇クラス@しが県民芸術創造館のお知らせ 2010/08/24 00:18.....	7
8/31 應典院×シアター・ザ・フェンスのお知らせ 2010/08/13 17:31	7
オーシャンズ・コンタクト・ダンス&プレイバックシアター・ワークショップ (act 1) のご案内 2010/07/21 15:18	9
「プレイバックシアター アブル」クラス開始のご案内 2010/07/12 21:40	10
「金剛山で、星空プレイバック！」のご案内 2010/07/06 15:08	10
（明治神宮+お祓い）×プレイバックシアター÷舞踏クラス日程のお知らせとご挨拶 2010/06/12 17:47	11
まざありいふ&シアター・ザ・フェンス・アーティストランチ in キャンドルウィークのお知らせ 2010/05/31 00:20.....	14
「すまいる」第2回パフォーマンス with シアター・ザ・フェンスのご案内 2010/05/25 15:22	16
シアター・ザ・フェンス in 築港キャンドルウィークのご案内 2010/05/23 03:14	17
NPO 法人「すまいる」でのプレイバックシアター公演のお知らせ 2010/05/18 00:11	19
（明治神宮+お祓い）×プレイバックシアター÷舞踏クラスのご案内 2010/05/03 15:47	19
第19回 プレイバックシアターワークショップ in 知床のご案内 2010/04/25 23:38	20
自分流ダンスとプレイバックシアター2 @高槻クラスのご案内 2010/04/25 23:20	21
スクール・オブ・プレイバックシアター日本校『プレイバックシアターのトランスパーソナルな側面』ご 案内 2010/03/19 23:00.....	22
シアター・ザ・フェンス松本公演！ヒトリ主義 Night2010/GARDE-winter-へのお誘い。2010/02/17 00:12	22
大神子・「プレイバックシアターの可能性に迫る」クラス最終回のご案内 2010/02/13 01:17.....	23
シアター・ザ・フェンス 『ヒトリ主義 Night 2010/GARDEN-winter-』 ご案内 2010/02/05 13:15	23
六甲山 de プレイバックシアターのお知らせ 2009/12/18 13:20.....	24
ダンス、舞踏のちプレイバックシアター時々劇団」からシェア。2009/12/18 13:06	24
第18回プレイバックシアターin 旭川・美瑛のご案内 2009/12/14 23:44	25
劇団まざありいふ主催・高槻ダンスとプレイバックシアタークラスのご案内 2009/12/05 02:16	26
福岡市・ダンスとプレイバックシアタークラスのご案内 2009/11/30 15:32	26
第7回徳島・大神子プレイバックシアター研究クラスのご案内 2009/11/14 19:41	26
12月・鳥取・プレイバックシアター・ウェイブ！！2009/11/01 17:29	27
「ダンスと舞踏、のちプレイバックシアター時々楽団」クラスのご案内 2009/10/16 21:44.....	27
高槻市・自分流ダンスとプレイバックシアターの基礎クラスのご案内 2009/10/16 21:26	28
フェンスショー満員御礼！と大神子ダンス WS へのお誘い 2009/09/25 00:37.....	29
フェンス登場！！ヒトリ主義 Night09 in 松本のご案内 2009/09/11 00:10	29
第18回 プレイバックシアターワークショップ in 旭川のお知らせ 2009/08/31 21:49.....	30
プレイバックシアターの研究@in 大神子（おおみこ）のご案内 2009/08/27 16:01	30

25日ビヨンド・ザ・フェンス、7月1日ダンスとPTクラスのご案内 2009/06/13 00:53	32
徳島・自分を「置いて」みる・プレイバックシアターワークショップのお知らせ。2009/05/28 11:49 ...	34
5/21：自分流リラックスダンスとプレイバックシアターの基礎 2009/05/18 05:23	35
プレイバックシアターの研究 in 徳島・大神子クラスのご案内 2009/05/14 11:58	36
第7回福岡プレイバックシアターワークショップのお知らせ 2009/05/14 11:50	37
礼文島プレイバックシアター追加募集のお知らせ 2009/05/09 16:14	38
7/10：第17回 プレイバックシアターワークショップ in 礼文 2009/04/15 17:12	39
3/27-29：群馬でプレイバックシアターワークショップ 2009/03/17 01:51	40
4/17-19：奄美大島でのプレイバックシアターワークショップ 2009/03/17 01:44	41
4/10-12：旭川でプレイバックシアター 2009/02/04 02:04	41
11/9：野舞台のたのしみ（復活祭！） 2008/11/06 08:02	42
10/24：創造・表現・コミュニケーションワークショップ 2008/10/07 23:55	42
9/20:第14回プレイバックシアターワークショップ in 旭川 2008/08/10 00:04	42
プレイバックシアターの研究 2008/06/06 15:11	43
5/31-6/1：興正寺プレイバックシアターWS 2008/04/22 22:41	44
5/23-25：プレイバックシアターワークショップ in 旭川 2008/04/08 12:44	46
2/29-3/2：プレイバック&エンカウンター 2008/02/03 00:32	47
4/5～2010年3月：プレイバックシアター 2008/02/02 01:05	47
12/15-16：興正寺プレイバックシアターWS 2007/11/19 16:09	48
10/27-28：第5回福岡プレイバックシアターワークショップ 2007/10/17 00:33	48
10/27-28：福岡プレイバックシアターワークショップ 2007/09/20 16:57	48
10/6-8：プレイバックシアター 2007/08/22 19:39	49
8/25-26：プレイバックシアター 体験ワークショップ 2007/08/12 21:13	50
4/29-30：興正寺プレイバックシアターWS 2007/04/12 22:35	50
2/24,25：興正寺プレイバックシアターWS 2007/02/02 22:04	51
3/2-4：プレイバックシアターワークショップ in 旭川 2007/01/23 17:13	51
1/27-28：興正寺プレイバックシアターWS 2007/01/16 17:27	51
10/15：プレイバックシアター 2006/09/23 08:50 （吉橋注；橋本さんの文章でしょうか？）	52
9/2-3：興正寺プレイバックシアターWS 2006/08/25 15:15	52

シアター・ザ・フェンス on ヒトリ主義 Night2010 開催間近！ 2010/09/09 15:51

皆様へ。

ヒトリ主義 night2010@ヴィオパーク劇場 in 松本は
24日から26日までの金、土、日に開催されます。

特に24日はプレイバックシアターワークショップに引き続いて、
「舞踏とプレイバックシアターの近接点」と題したクロストークを
行います。

先ごろのフェンスの稽古のときにあるメンバーが
「ネガティブ・コンタクト・インプロ」の名称と可能性を示唆してくれました。

アイデアの一端は南米の洞窟壁画「ネガティブ・ハンド」から
来ています。

この「ネガティブ」という言葉で何を意味しているのでしょうか？

直接には手を描いていないのに、どうしようもないリアリティで
浮かび上がってくる「手」そのもの。

我々が直接にはコンタクトしようとしていないのに
我々の動き・オドリを通じて浮き上がってくる存在。

このエネルギーが人の魂を整え、癒し、拡充する働きを
持っています。

僕にとっては舞踏は「ネガティブな」オドリであり、
僕にとってのプレイバックシアターは「ネガティブハンド」の
働きそのものであるといてもいいと思います。

クロストーク、楽しみです^^/

応用心理学会で試みるプレイバックシアターWSのご案内 2010/09/08 15:59

皆様へ。

今週の土、日曜日に京都大学で行われる

日本応用心理学会第77回大会

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~dev-okinawa/jaap/top.htm>

においてプレイバックシアターのWSを行います。

この学会は、

「実践の中で人間を徹底して尊重する心理学を目指して」

と銘打って行われ、300人以上の参加者がある大きな規模の集まりです。

実践するため野に下った多くの仲間に出会えるのは幸せです。

また、日夜現場で直接人々に対応する者として、

プレイバックシアターやその舞台構造の応用範囲の広さ、射程には

大いに見るべきものがあると感じています。

日々現場で実践し、研究されている方々とご一緒するプレイバックシアターの磁場をととても楽しみにしています。

シアター・ザ・フェンス in 孔子の里（佐賀県多久市）WS&公演のご案内 2010/09/02 00:10

皆様へ。

残暑が厳しいですが、お元気でしょうか。

應典院でのシアター・ザ・フェンスWS&公演は

各方面からたくさんの方にご来場いただき

おかげさまで大好評のうちに終了いたしました。

ありがとうございました。

引き続きまして今月18日より佐賀県多久市にて

表記のWSと公演を行います。

会場は、元禄12年（1699年）に肥前の国第4代、

多久茂文によって建てられた藩校で、

武士の子弟だけでなく百姓や町人にも門戸を開放した

自由な学校として名を残す東原庵舎（とうげんしょうしゃ）です。

應典院に引き続き、歴史的建築でのプレイバックシアターとなります。

ご縁ある方々のご参集を楽しみにしています。

「明治神宮・お祓いとプレイバックシアター」クラスご案内 2010/09/01 00:07

皆様へ。

明日 1 日水曜日と 2 9 日水曜日は

「明治神宮・お祓いとプレイバックシアター」クラスがあります。

舞台構造や結界の働きとプレイバックシアターの関連について
研究します。

應典院プレイバックシアター、いよいよ来週火曜日！ 2010/08/26 14:14

皆様。

應典院でのプレイバックシアター・デイは
いよいよ来週火曜日に迫りました。

<http://ptproduce.com/outeninPT.html>

各地からのご参集を得て、当日は良いエネルギーを
いただけそうです。

同じビジョンに関心を持つ仲間の集まりは、
そのまま強いエネルギーの振り子となり、
バイブレーションを広げていきます。

僕はこのような集まりが成立することだけで、
すでに深い満足感を感じます。

われわれの媒体としての役目はそこまでで、
後は創造性自体が働き始めるからです。

僕は出演者の一人ですが、一観客としてこの場（舞台）の
展開を見るものでもあります。

皆さんとともに見つめる 31 日火曜日、應典院の舞台に現れる
創造性のオドリを楽しみにしています。

芸術の創造性は、われわれの住む街角で日常的に
見られる当たり前のエネルギー現象になっていくでしょう。

どなたでもお気軽にお立ち寄りくださいませ。

アートリーダーズ・ミーティング・演劇クラス@しが県民芸術創造館のお知らせ 2010/08/24 00:18

皆様へ。

今月26日木曜日18時より、しが県民芸術創造館の主宰で演劇ワークショップを行います。

アートリーダーズ・ミーティングというテーマのもとに行われる一連のクラスのひとつですが舞台構造の意味やプレイバックシアターの考え方をシェアする予定です。

同日引き続いて坂本公成氏のコンタクト・インプロのクラスもありますので連続参加が可能です。ふるってご参加くださいませ。

8/31 應典院×シアター・ザ・フェンスのお知らせ 2010/08/13 17:31

皆様へ。

應典院という大阪のお寺をご存知でしょうか？

「日本で一番若者が集まるお寺」、「演劇の應典院」などいろんなキャッチフレーズがあり、マスコミやテレビを通じてご存知の方もあるかもしれません。

浄土宗大蓮寺の塔頭寺院として1614年に創建されましたが、1997年に再建され、地域の文化・教育活動にエネルギーを注ぐ民衆に開かれたお寺として注目を浴びるようになりました。

さまざまなジャンルのユニークな人材とネットワークを作り、演劇祭や講演会をはじめ、コモンズフェスタ、寺子屋トークなど魅力的な活動を発信し続けています。

先ごろ、その應典院の代表である秋田光彦師とお目にかかるご縁がありました。短い時間でしたがお互いに熱いエネルギーを感じた楽しい時間でした。

その後すぐに秋田師自らビヨンド・ザ・フェンスに来てくださり、テラーとなって葬儀にまつわるタフなストーリーを語っていただきました。アクターも必死に応えて手に汗握る真剣なプレイバックとなりました。

「自己の内面を他者によって「表現」されるという不思議な体験。都市の片隅で、静かにコミュニティの秘儀を交わすような。昔、アジアの路上で見たコミュニティプレイを思い出した。演劇は儀礼だ。・・・エンタメ本位になりがちな最近の演劇に、そもそも演劇が持つ潜在力と可能性を突きつける。」(秋田師)

「中世、芸術は権力に奉仕し、近代以降は市場に奉仕した。戦争や金儲けを正当化するために芸術は動員されたとも言える。現代の課題は、芸術が市民に奉仕できるか否か。権力や資本におもねらないポジションを確立できるか。」

と語る秋田師はご自身、演劇や映画製作にも関わられた舞台人でもあります。僕は秋田師の言葉に大いに勇気づけられて、ますます元気になりました。

すると、とんとん拍子にフェンスワークスと應典院の共同企画が成立しました。8月31日、應典院の劇場仕様の本堂である円形ホールに、シアター・ザ・フェンス登場です。

同時にプレイバックシアターのワークショップやアフタートークも行います。刺激的で密度の濃い空間になりそうです。

このよい機会を、すでに「コミュニティの秘儀を交わし」続けている仲間であると感じている皆様とぜひ一緒にしたいと思います。

プレイバックシアターや舞台が初めての方もお気軽にどうぞ。

そもそも舞台空間に出入りすることに経験など関係ないのです。

皆様の「存在」を持って成立するお祭りなのですから。

オーシャンズ・コンタクト・ダンス&プレイバックシアター・ワークショップ (act 1) のご案内 2010/07/21
15:18

皆様へ。

今月31日土曜日と8月1日日曜日は、第4次オーシャンズ・カンボジア遠征チームのためのコンタクト・ダンス&プレイバックシアター・ワークショップ (act 1) が開催されます。

この act 1 ワークショップでは、カンボジアへ行くかどうかは決まらなくても、標記のダンスとプレイバックシアターに関心がある方の参加を広く受け付けています。

参加費は2日間で1万6千円です。
どうぞお気軽においでくださいませ。

ワールドカップ優勝のスペインチームのようにチームワークや連携の妙をその特徴とするオーシャンズ・カンボジア遠征チームは、このワークショップ参加者から形成されていきますが、なぜ、チームビルドの最初の入り口が「広い」のでしょうか。

今までの4回にわたる東南アジアへの遠征経験から、最終的にオーシャンズメンバーとして同行することになるのが誰であるのかは、直前にならないと決まらないということが分かってきているからです。

オーシャンズでは可能な限り主体的に、そしてそれぞれの参加者の日常の暮らしを含めて可能な限り全体的に、深く、カンボジアへの遠征にコミットしていただきたいと考えています。

そのために、実際に行くことと決定するまでにはどの方も、真剣に考え、揺れ動くこととなります。

実際に遠征が始まって、連夜のグループアプローチによって自分や他者の内面にまなざしを向け続けることとなります。

使用される方法はエンカウンターグループ、プレイバックシアター、ファミリーコンステレーション、サイコドラマ、ソシオドラマ、瞑想など多岐に渡りますので、昼間のカンボジアン・エネルギーとの接触との相乗効果によって、揺れは深層まで及びます。

そういうわけで、オーシャンズ・カンボジア遠征に実際に行くかどうか分からない方や、来年以降の機会に行きたい方、あるいはこのタイミングで出会ったこのワークショップになぜか来てしまった、と言う方々の参加を広く歓迎しているわけです。

たった一つの小さな揺れ、ささいな誰かの一言が含むバイブレーションが、深層まで届いていくようなリスニング（傾聴）の風土に支えられたこのようなグループ（チーム）環境では、どんなきっかけが人生を揺る

がす大きな決定に結びつくことになるのか誰にも分からないからですね^^

9月11、12日のact2ワークショップに引き続いて、来る10月2日から11日まで、カンボジア奥地、ベトナムとの国境に近いリング村の日本・カンボジア友好学園へのオーシャンズ・エクスペディション（冒険の旅）が待機しています。（旅費・滞在費・研修費含み25万円）

今回もめくるめく、現実と非現実（内面）世界が交錯し、時空が揺らぐ不思議な旅になることでしょう。

僕としては、現地のクメール人の子どもたちに教師として関わる志を持った方々が今回の「旅の仲間」（byロード・オブ・ザ・リング）あるいは「旅の道づれ」（by坂本公成）に加わってくださることがうれしくてたまりません。

花のような笑顔を見せる子どもたちに囲まれて、日本の歌や折り紙、サッカーや野球を教え、ともに歌い踊り、夜は広い校庭の上に広がる驚異的な星空を眺めて語り合うことでしょう。

「プレイバックシアター アブル」クラス開始のご案内 2010/07/12 21:40

皆様。

今月8日より、スタジオCAVEにて、初めての方も参加しやすいプレイバックシアターのクラスが始まります。

プレイバックシアターは日常的に続ける習い事、趣味としても大変面白く、楽しいものです。

僕は老後の趣味として続けて行こうと思っていますので暇を見つけてメンバーとして参加します。

話を聞いてもらえるし、自分のペースで体を動かせるし、ステージに上がって適度にアドレナリンも駆け巡りますので気持ちも体も若返ります^^。

どうぞお気軽にご利用くださいませ。

「金剛山で、星空プレイバック！」のご案内 2010/07/06 15:08

皆様へ。

いよいよ夏本番ですね。

いかがお過ごしでしょうか。

さて、8月4日水曜から5日木曜にかけて、大阪府で最も高い山、金剛山の山頂で、プレイバックシアターワークショップを行います。

自然教育事務所 宙 とフェンスワークスの初コラボレーションです。

ワークショップを作品と考えると、二つのエネルギーのデュエットが既に始まっているわけですね。

金剛山は僕も若い頃から親しんだ大好きな山、大阪人の聖なる山なので、本当に楽しみにしています。

よろしければぜひ一緒にしましょう。

(明治神宮+お祓い) × プレイバックシアター ÷ 舞踏クラス日程のお知らせとご挨拶 2010/06/12 17:47

皆様へ。

(明治神宮+お祓い) × プレイバックシアター ÷ 舞踏の初回クラスは、11名のメンバーで行いました。

コンタクトインプロから、プレイバックシアターへ、そしてダウンロードムーブメントを使ってお祓いの構造を実験してみました。

プレイバックシアターと比べて、お祓いの場の構造の方は、伝達されるエネルギーがハラのレベルへ向かうようにセッティングされるようです。

16日(水)の第2回目クラスも、楽しくオドリながら、人生や生命現象の秘密に「気軽に」接近してみます。

先日、ある新聞記者のインタビューを受ける機会がありました。真剣な質問と、それに答えるという経験はある種の働きかけを受けることで、

自分の中から、いろいろ伝えたいことが出て来ます。

それは皆さんにお伝えしたいことと同じですので
転記してみます。

たとえば、

「民衆の死生観に密着した冠婚葬祭の儀式は、
それ自体が大変面白い芸術様式であるということ。

もし我々がこれらの儀式にいのちを吹き込んで再び用いるならば、
心理的な癒しや、人生の生き方への知恵や、
特定の間人間関係を全うすることなどの人間の本質的な課題に
対して大きな効果を発揮する優れた方法になりうるということ。

さらに、今まで楽しくないと思いがちだった我々の「平凡な日常」の営みと
コントラストを作って繰り返されるお年始、お盆などの季節的儀式も、
ていねいな内面への視界を用いて、儀式から内面性を切り離さずに
その本質を復活させると、ものすごく面白い体験になりうるということ。

つまり、我々の「普通の」日常生活＝人生は、
もしそれをちゃんとオドることができれば、
実は最高に楽しい冒険であるということ。

僕自身が住んでいる大阪市の西区、隣の区である港区、
大正区の仲間たちと深め、発展させたいのは、
この土地に長く住んでいる我々にしかできない
ものすごく面白い「普通の日常」の制作であるということ。

築港キャンドルナイト、エンカウンターレボリューション、
ビヨンド・ザ・フェンス、すまいるを始めとする各種施設でのパフォーマンス、
應典院やCIMJ（コンタクト・インプロ・ミーティング・ジャパン）など
芸術文化に強くコミットしている組織での公演やワークショップ、
フェンスワークスの起動、フェンスショーの開催、

区役所の市民参画会議への参加、
地元の町内運動会への参加、面白い人物へのインタビューetc.を
制作手段として現在展開中であること、

それらの展開で生まれた人間関係が持続力を持っていて、
なかなか消滅しないのは、人々との関係性が、治療関係や援助関係ではなく、
人間としての敬意に基づいたつながりだからであること。

そしてそのつながりは、
「人の言葉をそのまま聞くこと」というシンプルな人間関係の
作法があるところに生まれること。

“フェンスコミュニティ”はひとつの運動体であり、
現在コミットを深めつつある人々には共通の性質が見られること。

それは、

たとえもつれたネガティブな人生でも、
最後まで自分自身の光によって生きようと試み、

たとえ、「今の生き方は本当のあなたではない。真実の人生を生きてね。」
と言われても、
その援助者の態度に真の敬意が感じられないならば
断固として受け入れず、

あえて自分の生き方を全うして
自分自身の手で人生の可否を決定したい人々であり、

僕は、彼らこそが「人が生きていく強さ」を伝達している人々で、
「新・普通の日常」の制作者である、と考えているということ。

さて、そんなことを考えている僕ですが、読んでくださって

ありがとうございました。

皆さんが、たとえわずかな関心を向けてくださるだけでも、
なんだかもったいないようなことに思います。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

まざありいふ&シアター・ザ・フェンス・アーティストブランチ in キャンドルウィークのお知らせ
2010/05/31 00:20

皆様へ。

いよいよあさっての6月1日火曜日19時から、
築港キャンドルウィークが始まります。

キャンドルナイト当日の21日まで、
大阪市港区の築港地区で連続して発生するユニークなイベントの数々。

その栄えあるトップバッターは、
プレイバックシアター・「まざありいふ」です。

~~~~~

6月1日火曜日（19時～21時）

「癒しの劇場・プレイバックシアター第一幕  
～母親達の即興劇団「まざありいふ」～

ご来場のお客様から伺ったお気持ちや日常生活の経験を  
そのまま演じて見ていただきます」

<http://pt-motherleaf.jugem.jp/>

\*大阪日日新聞記者の椎葉さんが、先日のすまいるでのパフォーマンスにも取材に訪れ、引き続いてまざありいふ公演も取材します。

ご家族、ご友人の方々、応援よろしくです^^/

~~~~~

続いて翌2日水曜日第1部では、

シアター・ザ・フェンス・ミュージシャンブランチから
音楽ライブパフォーマンスをお届けします。

そのオリジナル曲にコアなファンが定着し始めた
アコースティック・シンガーソングライター、
「みーこ」こと橋本李枝と
昼間はまじめな社会人として仕事に取り組みつつ、
夜はパンクロックの狂熱エレキギタープレイを披露する赤阪正敏が、
なぜかタッグを組んで結成したユニット「エレアコ」の登場。

すまいるでもやはり女性のお客様がうるっときてました。。
定評のある“うるっ”系アコースティックにエレキギターがピリリと聴かせます。

~~~~~

6月2日水曜日 19時～

## 第1部

「月の光～二つのギターとともに。。

by エレアコ（橋本李枝・赤阪正敏）

~~~~~

そして同日第2部には、
シアター・ザ・フェンス・ダンサーブランチより、
フェンスの誇るトランス・ダンサー岡山睦美と
フランス帰りの肉体派ダンサー辻本佳のコンテンポラリーダンスを
お届けします。

むっちゃんこと岡山睦美が、松本ヴィオパーク劇場で見た作品「花売り」にはダンスに詳しくない僕も、
評論家亀田氏も泣いてしまいました。

不思議な魅力がこの人からは立ち現れます。
我々庶民の生きているオーラに共振してオドルダンサーです。

フェンスワークス・オープニングパーティで、腕の筋肉をきませながら小さな椅子と踊ったシーンが忘れ
がたい辻本佳は、もと柔道家からの転身です。

彼のオドリを見ていると僕は、誠実な気持ちになって、自分の人生のことをまっすぐに考えたい気分になり
ます。

人に勇気をもたらすダンサーであると思います。

この二人のコラボレーションは楽しみです。

~~~~~

## 第2部

コンテンポラリーダンスの夜

「R a s a ~ 露 ~ リトアニアでは夏至を rasa という。夏至の日の朝露が大きいほど豊かな収穫があると信じられている。すべてを新しく生まれ変わらせる炎とともに今日のこの瞬間をオドリます。

ダンサー・岡山睦美、辻本佳

「すまいる」第2回パフォーマンス with シアター・ザ・フェンスのご案内 2010/05/25 15:22

皆様。

雨上がりの大阪です。

今週 29 日の土曜日午後 5 時半頃から、NPO 法人「素 my 流」(すまいる)での第 2 回目の公演を行います。

今回はシアター・ザ・フェンスのメンバーを中心に、歌やプレイバックシアターなどのパフォーマンスを行う予定です。

前回のまざりいふの公演は、いいエネルギーをシェアすることができて、見ていた我々にとっては新鮮な「場の記憶」となりました。

このようにして、訪れた人々や表現行為をした人々、そしてそこに住む人々のバイブレーションが場に加わり、人間にとって栄養豊かな「場所」や「コミュニティ」が生まれていきます。

これは「建築の営み」だな、と思います。

存在感のレベルで行われるある種のダンスや瞑想などの全体的な表現行為はその場所をそれまでとは違った場所にしていきます。

それは地上に栄養豊かな場所を増やしていく営みであると思います。

その場所を訪れた人は、その栄養を、まるで蝶々が花から蜜を吸うように吸収することができます。

この素敵な空間「すまいる」が、訪れる子供たちや大人たちのために、さらによき場所となり、そして神聖な場所となっていくますように。

シアター・ザ・フェンス in 築港キャンドルウィークのご案内 2010/05/23 03:14

皆様へ。

来る6月21日の夏至の日に、大阪市港区の大正ロマンあふれる築港赤レンガ倉庫横の駐車場を借り切ってキャンドルナイトが行われます。

隣の西区に住む僕が子供の頃から大好きだった、ロマンチックな夕日と船がいっぱいの大阪港。

その海岸沿いに住む人々と関わるようになったドキュメントをご報告して公演のご案内に代えたいと思います。

主催は、この海に囲まれた六角形の形をした築港地区に住む人々が、アートや文化を生み出せる聖なる六角形にしようと立ち上げた「みなアート会」。

僕は友人の紹介でまず、これも素敵な大正ロマン建築の「ビルジング」天満屋で「ハ a ハ a ハ a」というカフェを営むハラダミホさんと出会います。

チャーミングな人です。そして人々の集まるいいお店です。僕はすぐに大好きになりました。

最初はこの気持ちのよいビルとカフェでダンスやプレイバックシアターなどのパフォーマンスをやりたいなあという気持ちだったのですが、ミホさんが、みなアート会主催のキャンドルウィークに出ないかと誘ってくださいました。

キャンドルウィークとは21日のキャンドルナイトに向けて、築港の人々が自分のお店やスペースを会場として提供し、アート、文化、コミュニケーションなどのイベントを3週間に渡って連続的に行うお祭りの期間です。

人々とつながれる楽しさを感じて、「出ます！」と言った僕は、彼女に連れられて、築港地区の誇る芸術施設であるCASO (Contemporary Art Space Osaka) へ伺いました。

そこで、海岸通ギャラリーCASO と呼ばれるこの素敵な空間を案内して下さったのがスタッフの長坂行則さん。

またすぐに好きになってしまいました。

そばにいるとほっとする方です。

これからもお友達でいてください、と言いました^^。

とんとん拍子で話が進み、キャンドルウィークのうち四日間をいただいて、CASO のご協力のもと、プレイバックシアター、歌のライブ、ダンスをやることになりました。

昨日、出演するダンサーとフェンスメンバーを連れて場当たりのため CASO へ。

この時出会ったのは、CASO 運営スタッフとして新たに加わった北村良子さん。

ご自身もインスタレーション・アート作家で、今はギャラリー側から若いアーティストたちと関わっておられます。

お話すること数十分でまた大好きになりました。

帰り道、フェンスアクターの田中聡君のアイデアを受けて、北村さんの作品とミニ・カウンセリング・アートを融合したインスタレーションをスタジオ CAVE でやってみるイメージが生まれました。

考えただけでも楽しいですね^^

僕の中ではもう実現しています！

という流れで、6 月に入ると以下のように、シアター・ザ・フェンスのプロデュースによるパフォーマンスを築港キャンドルウィークにおいて行います。

すべて会場は CASO で、参加費は無料です。

<http://www.cwo.zaq.ne.jp/caso/>

USJ に勤める外国人たちもたくさん住んでいて、異国情緒あふれるこの聖なる六角形地帯。

僕が誇りに思う地元の空間をシェアします。

どうぞご家族おそろいでおいでくださいませ。

皆様。

暑かったり寒かったりと不思議なお天気が続いていますが、お元気でしょうか。

今日は、NPO 法人「素 my 流」（すまいる）と連携した公演活動のお知らせです。

フェンスワークスのオープンパーティに来てくださった方はご存知かもしれませんが、フェンスワークス事務所の斜め左向かいに、かわいい黄色の 2 階建ての建物が見えます。

ここが「すまいる」です。

こんな近くに、ほんとに不思議なご縁です。

すまいるの活動は

「障害の有無・年齢・性別などに関わらず、すべての人の基本的人権が尊重され、自らの力で夢や希望の実現に向けて創造し、あらゆる可能性を發揮できること」  
を目標にしています。

我々の考え方にとてもマッチしますね！

すまいる代表の宮武敬子さんとはすぐに打ち解けて意気投合しました。

大阪人のユーモアとバイタリティを持つ素敵な人で、ぜひ皆さんにも会っていただきたいです。

今後、継続的にすまいるでのパフォーマンスを行うビジョンも生まれました。

フェンスワークスを訪れる仲間たちが、気楽にすまいるに立ち寄って、思い思いの時間を過ごすようになればいいな、と思います。

ということで、来週 18 日火曜日のお昼 j 間に第 1 弾のパフォーマンスを開催いたします。

初回パフォーマンスを担当するのは、高槻市のお母さん達によって結成されたプレイバックシアターの劇団「まざありいふ」です。

（明治神宮＋お祓い）×プレイバックシアター÷舞踏クラスのご案内 2010/05/03 15:47

皆様へ。

先日、東京代々木での仕事の折、  
敬愛する友人 N 氏が首筋に不調を訴え、お祓いがいいよ、との参加者の言葉に、  
それなら近くに明治神宮があるから、と出かけました。  
僕は付き添いに指名していただいて明治神宮の本堂と一緒に座らせていただきました。

楽しかった！

雅楽の演奏あり、舞いあり、言葉あり、空間の使い方の手順（作法）あり、で儀式の面白さを再確認しました。

こんなことを言うのは不適切なのかもしれませんが、僕もやってみたいと思ったのです。

過去、結婚式やお葬式でプレイバックシアターを試みたことがあります。

また、北海道や富山、奄美で行った、土地のエネルギーを身体に落とし込んで表現するプレイバック舞踏や今回のようなお祓い、カンボジアでの多くの死者への鎮魂の踊り、地雷被害にあった人々とのダンスなどの経験を通じて、いま思うことは、民衆の死生観に密着した冠婚葬祭の儀式は、それ自体が大変面白い芸術様式であるということ。

もし我々がこれらの儀式にいのちを吹き込んで再び用いるならば、心理的な癒しや人生の生き方への知恵や、人間関係を全うすることなどの本質的な課題に対して大きな効果を発揮する優れた方法であるということ。

さらに、今まで楽しくないと思いがちだった我々の「平凡な日常」の営みとコントラストを作って繰り返されるお年始、お盆などの季節的儀式は、ていねいな内面への視界を用いて両者を切り離さずに見つめてみると、ものすごく気持ちのいいダンス体験のアップビートとダウンビートであるということ。

つまり、我々の「普通の」日常生活は、もしそれをちゃんとオドることができれば、実はものすごく面白いのです！

僕自身が住んでいる大阪市の西区、隣の区である港区、大正区の仲間たちと深め、発展させたいのは、この土地に長く住んでいる我々にしかできないものすごく面白い「普通の日常」の制作です。

前回のクラスでの成果を踏まえて、今回は上記のような視界のもとにクラスを作っていきたいと・・・  
縁ある仲間と一緒に生きたい、行く道を行きたいと思います。

**第 19 回 プレイバックシアターワークショップ in 知床のご案内 2010/04/25 23:38**

皆様へ。

お元気でしょうか。

昨年の礼文島でのプレイバックシアターに引き続き、今年は世界遺産・知床でのワークショップが実現いたしました。

福井県の有峰山や南西諸島の奄美大島、北海道では美瑛、そして礼文島と国定、国立公園でのプレイバックシアターを続けてきましたが、土地のエネルギーに感応しあうプレイバック舞台装置の面白さは回を重ねるごとに深まっています。

僻地でのプレイバックシアター（！？）は毎回思いがけない冒険を伴い、スリリングですが、僕はその味わいが大好きです。

今回の知床でのプレイバックシアターも、大ホテルでの開催を避けて、遠音別(おんねべつ)神社というちょっと計算できない場所を選定しました。

エンカウンターセッションなども盛り込みながら、参加者でチームワークを発揮しつつ、創り上げていくワークショップになります。

何が起こるか見えない感じが何だか僕は楽しくてなりません。。。

**自分流ダンスとプレイバックシアター2@高槻クラスのご案内 2010/04/25 23:20**

みなさまへ。

風の噂では、お母さん達がダンスやプレイバックシアターなどの舞台芸術に目覚め始めているとか・・・

子育て中のお母さん達が、ちょっと子供を友人に預けて、舞台に上がり、お客さんとして来られた地域の人々のご自分の人生模様を語ります。

すると、舞台上では、それがたとえどんな内容であっても、すぐさま即興で表現されていきます。

真剣な演技からは、語られた人生への敬意が伝わってきます。

他のお母さん達はびっくりします。

あの人があんなことできるなんて！！

まさか、もしかしたら、わたしでもできるのかしら！？？

芸能人しかあんなことできないと思い込んでいたのに・・・

僕は言います。

できます。

お母さん達はアーティストです。

では立ってみてください。行きたい場所へ歩いていきましょう。

ほらね！ 舞台空間がそこにあれば歩く姿が作品となります。

からだを持っている人はだれでも舞台人です。。。

というような具合にクラスは進んでいきます。

このクラスではダンスや演技を通じて本当の自分になることを学びます。

だから本当に自分の人生を生きたい人はどなたでもおいでくださいませ。

お目にかかれるのを楽しみにしています。

スクール・オブ・プレイバックシアター日本校『プレイバックシアターのトランスパーソナルな側面』ご案内 2010/03/19 23:00

皆様へ。

スクール・オブ・プレイバックシアター日本校でのクラスのご案内です。

テーマは「プレイバックシアターのトランスパーソナルな側面」です。

僕自身の関心とも大いに重なる領域ですので、楽しみにしています。

どなたでもお越しくださいませ。

シアター・ザ・フェンス松本公演！ヒトリ主義 Night2010／GARDE-winter-へのお誘い。2010/02/17 00:12

皆様。

いよいよ今週金曜日より松本公演&WSが始まります。

フェンスメンバーはバスや電車、車などそれぞれの方法で現地入りします。

雰囲気満点のヴィオパーク劇場で、コンテンポラリー・ダンサーやミュージシャンなどの出演者とともにプレイバックシアターを芸術作品として提供します。

今回のシアター・ザ・フェンスのミュージシャンはチェリスト甲藤為元氏が担当します。

クラシカルな音世界の中で展開するプレイバック・パフォーマンスとなるでしょう。

また、WSではミニカウンセリングの磁場を用いた舞踏作品を発表する予定です。

楽しい時間になりますね^^

ぜひご来場くださいませ。

#### 大神子・「プレイバックシアターの可能性に迫る」クラス最終のご案内 2010/02/13 01:17

皆様へ。

徳島・大神子海岸で2年に渡って開催を続けてきたこのクラスもいよいよ最終回です。  
プレイバックシアターは芸術の様式であるとともに癒しやセラピーとしての効果も報告されています。

プレイバックシアターと「癒し」と呼ばれるもの、あるいは心理治療や問題解決といった営みとの関係はどんな景色になっているのでしょうか？

興味深い視点ですね。

プレイバックシアターと同じく、舞台（セラピーフィールド）とアクター（代理人・補助自我）を用いる効果的な二つのセラピー・メソッドの視点と比較しながら皆さんとともに探求してみたいと思います。

#### シアター・ザ・フェンス 『ヒトリ主義 Night 2010/GARDEN-winter-』 ご案内 2010/02/05 13:15

皆様。

シアター・ザ・フェンスにとって得がたい経験だった

「ヒトリ主義 Night 2009 松本公演」に引き続き、松本公演第2弾、

『ヒトリ主義 Night 2010/GARDEN-winter-』が2月19日から21日まで開催されます。

真冬の松本の土の匂いにあふれたヴィオパーク劇場でカッコいい仲間たちと作る濃密な磁場。  
是非ご覧下さいませ。

六甲山 de プレイバックシアターのお知らせ 2009/12/18 13:20

皆様へ。

カンタービレが主催するプレイバックシアターワークショップのご案内です。  
六甲山頂はやはり空気が違うためか気分がずい分変わります。  
新春に、下界を離れ、神戸の町を見下ろす真冬の山頂で味わうプレイバックシアターです。

丁寧に互いのお話に耳を傾けつつも、ダンスブルに楽しみましょね^^。

ダンス、舞踏のちプレイバックシアター時々劇団」からシェア。2009/12/18 13:06

橋本です。

表記のクラスに来られた参加者から感想文が届きました。  
見事なので了解を得てシェアします。

僕にとってはダンスとプレイバックシアターは同じ深みを持っています。

これからもダンサーとのジョイントを試みて行きたいと思います。

はしもとくにひこ

「こんばんは。先日はどうもでした。

これまで いろんなダンスのワークショップに出ながらも何か釈然としないものがあつたのですが、橋本さんのバーバルで論理的な説明を受けて、そしてじっくりと「相手」を感じて踊ることができて大きな収穫がありました。

人とだけではなく、ものとも、自分のからだごと対象の存在を感じて踊るといことばにも「そうか」と思いました。

その後 家で椅子と踊ってみてわかりました。

フェンススタジオでも感じましたが、より家で深めることができました。

結局 私は(誰もが?)人やモノと踊ることで、自分自分をとても感じることに気がきました。

それが、自分の体に気付くということなんだなと。

今ここにある 自分の体なんだなって。

私はそれをずっと感じたかったんだなって。

なにかあると踊りたくなるけど、音も何もない中でなかなか踊りにくかったりしたけど、今回すごくはっきりと「自分のからだ」を感じる事ができたし 踊る時のこころづもりというか、よりどころというかきっかけ、方法みたいなものが得ることができたのではないかと思います。

なんか、これで踊ることが怖くなくなるんじゃないかな?

まだまだようやく入口にたっただけで先があるのかな?」

第18回プレイバックシアターin 旭川・美瑛のご案内 2009/12/14 23:44

みなさまへ。

新年、一面雪景色の美瑛のペンションを借り切ったの  
プレイバックシアターワークショップです。

リピーターの多い人気の秘密は、  
何と言ってもこの真冬の「美瑛」でしょう。

プレイバックシアターに関心のない方も  
来てくださっていいと僕は思います。

外は零下何十度という世界。一つ屋根の下で一緒にいたしましょう。

よい時間と空間が待っています。

劇団まざありいふ主催・高槻ダンスとプレイバックシアタークラスのご案内 2009/12/05 02:16

皆様。

12月9日水曜日午前10時から13時まで下記の要領でプレイバックシアター高槻クラスを開催します。

徳島の「アワ's プレイバックシアター」に続いて先日旗揚げしたばかりのお母さん達の劇団「まざありいふ」は美容室公演に続いて今度は保育園のお祭りにも出現し、ダンサブルな動く彫刻を繰り広げました。

見事な機動力を発揮して「作用」を開始した彼女たちの舞台空間におおいに期待しています。

末尾の体験報告もぜひご覧くださいませ。

昨日は徳島市でやはりお母さん方のエンカウンターグループを行いました。僕にとって子供を育てておられる女性達は素晴らしい「素材」であると感じています。

「子育て支援」をする対象には見えなくなっていて、一人ひとりに表現者・アーティストとしての計り知れないエネルギーや情熱を感じます。

「母親族」という非常に生命力豊かな新たな民族を発見したような気分です。今後さらに彼女たちの国の奥深くへ旅を続けて行きたいと思います。

福岡市・ダンスとプレイバックシアタークラスのご案内 2009/11/30 15:32

皆様へ。

以下の日程でダンスムーブメントとプレイバックシアターのクラスを行います。  
ダンスもプレイバックも変化していく人間存在やコミュニティを支える画期的な芸術です。  
今回は、参加された方のニーズに沿いつつ、カウンセリングやリスニング、セラピーやヒーリングについても体験的に触れながら進めて行きたいと思います。

ダンスメディテーションも行います。深く会いましょう。

第7回徳島・大神子プレイバックシアター研究クラスのご案内 2009/11/14 19:41

皆様へ。

来る12月11日から13日まで徳島・大神子でのプレイバックシアター研究クラスがあります。もう7回目となります。

おかげさまで毎回密度の高い場が成立しています。

初々しかったお母さんアクターたちは、「空間」と「沈黙」に宿るエネルギーを理解した力強い舞台を見せてくれるようになりました。

今回の大神子研究クラスはいよいよ実践！パフォーマンスです。

社会にコミットしてこそ面白さが分かるプレイバックシアターですが、

すでにクラスのメンバー達は見事なパフォーマンスを実施してきています。

我々が住んでいる地域の中に、プレイバックシアターという芸能空間を創設することの意義や具体的なノウハウについて、互いの成果を分かち合いつつ深めてみましょう。

楽しみです！

#### 12月・鳥取・プレイバックシアター・ウェイブ！！2009/11/01 17:29

皆様へ。

12月、以下の要領で鳥取でのプレイバックシアターワークショップを行います。

シアター・ザ・ウェイブは日本海の荒波に向かって活動を続ける頼もしい山陰の“海猿”劇団です。

以下に代表の吉野朱美氏からのご案内を掲げます。

よろしければ是非ご一緒いたしましょう。

#### 「ダンスと舞踏、のちプレイバックシアター時々楽団」クラスのご案内 2009/10/16 21:44

皆様へ。

昨日「自分流りラックスダンスとプレイバックシアターの基礎」大阪夜のクラスの最終回が終了いたしました。

コンテンポラリーダンスや舞踏のエネルギー場と、プレイバックシアターの空間を出入りしながら、刺激と興味の尽きぬクラスになりました。

「舞踏」の感覚にインスパイアされた日本人独特の感性を基礎においたプレイバックシアターのチームが誕生しつつあります。

参加者全員で瞑想を行った後、執り行ったプレイバックシアターでその舞台感覚を自覚（発見）しました。

ともにその経験を共有したメンバーたちと、ヨーロッパ公演について具体的なイメージを膨らませて語り合えるなんて、面白過ぎます^^/

(ヨーロッパでは舞踏が日本固有の芸術として受け入れられているのです。)

こんな面白いクラスは継続しましょう。

以下のように来月から再び、セカンドタームを開始します。

関心、好奇心を感じられた方は是非どうぞ。

まったく踊りが初めての方でも大丈夫です。

からだを持って立ったり座ったりしている我々は、そして一生懸命に日々を生きている我々は、すでに舞踏の中にいるからです。

このクラスに来てくださるのは、サラリーマンや主婦の方だったり、仕事を探していたり、自分で作ろうとしている人間臭くてやさしい普通の人々です。

どうぞお気軽に仲間に入ってくださいませ。

今、「普通の隣人」がもっとも面白く、熱いのです。

#### 高槻市・自分流ダンスとプレイバックシアターの基礎クラスのご案内 2009/10/16 21:26

皆様へ。

松本市での公演「ヒトリ主義N i g h t 0 9」はシアター・ザ・フェンスにとって画期的な大成功となりました。

舞踏家本木幸治氏との出会いが今回の松本での最大の出来事だったと言ってよいと思います。

プレイバックシアターが日本の大地に深く根を生やした「舞踏」と出会った歴史的な一瞬であったと思います。

この衝撃をこれからの活動に反映しつつ、じっくりと言葉にして皆様とシェアしていきたいと思っています。

今後ともよろしく願いいたします。

皆様へ。

昨日まで5日間にわたって開催しましたフェンス・ショーは、おかげさまで大盛況のうちに終了いたしました。

最後のプログラム「かずりんアイドル化計画!？」でペンライトを振って絶叫したために枯れた声とノドの痛みが、自分の内部からあふれ出る若いエネルギーの存在を思い出させてくれます。

5日間のフェンスショー計23個のプログラムすべてに参加者が来てくださったので、延べにして数えてみたら、なんと330人以上の方々がフェンスショーに関わってくださったこととなります。

初めての方との出会いや、異なったフィールドで働く方との出会いがあり、化学変化のように花開く人と人との相互作用はまさに、いくら見ても見飽きない色とりどりの花畑のようです。

ふとしたインスピレーションから始まった企画でしたが、本当にやってみてよかったと思います。

スタッフはとても疲れていましたが、お互いに「またやりたい!」と以心伝心で感じ合うフィナーレでした。

訪れてくださった皆様、応援してくださった方々に心より御礼申し上げます。

次回のフェンスショーにも大いにエネルギーを注ぎたいと思います。

是非ご期待くださいませ。

さて、余勢を買って来週10月2日(金)～4日(日)、徳島市でダンスワークショップを行います。

プログラムは、

- ①自分流コンタクト・わがままインプロダンスを楽しむ
- ②ダンス・メディテーション・踊りの中に消えろ!
- ③キネシオロジー(筋肉反射)とオーセンティック・ダンス
- ④場所とダンスのシャレにならない関係
- ⑤プレイバックシアターVSダンス
- ⑥カウンセリング fall in love with コンテンポラリー・ダンス
- ⑦狼は誰だ!

などのテーマについてシアター・ザ・フェンスの3人のメンバーがナビゲーターを務めます。

皆様へ。

シアター・ザ・フェンスは松本市の堅穴式表現空間・ヴィオパーク劇場にて開催される「ヒトリ主義 Night09」に出演します。

<http://hitorisyuginight.chicappa.jp/>

他にも魅力的なパフォーマー達が勢ぞろいです。

秋の松本観光も兼ねて是非お出かけくださいませ。

#### 第18回 プレイバックシアターワークショップ in 旭川のお知らせ 2009/08/31 21:49

皆様へ。

秋のプレイバックシアターin 旭川のお知らせです。

丘の景色が素晴らしい美瑛のペンション貸切での開催です！！

主催のシアター・ゼロ代表、田淵久仁子氏はカウンセリングやエンカウンターグループの経験が豊富で、僕にとっては長年にわたって、「聞く」ことの本質や「場の現象学」について語り合ってきた同志の一人です。

以下のご案内にある氏の指摘、

「(我々は) 主体的に生きているように見えて、実は、場を形成するものによって大きく規定されていっているのではないか」

については、僕も最近いくつかの洞察を得ているテーマです。

もうお互いに半世紀を生きてきた友との語らひは、さすがに味わい豊かなものとなってきました。

今回もまたプレイバックシアターを通じて、人間とこの現象界の面白さと神聖さを存分に味わいましょう。

#### プレイバックシアターの研究⑥in 大神子（おおみこ）のご案内 2009/08/27 16:01

皆様へ。

第6回目の大神子プレイバックシアター研究クラスのご案内です。

今回はいよいよプレイバックの司令塔である「コンダクター」についての研究です。

CIMJ で振付家やダンサー、建築デザイナーの方々と語り合っ、改めてプレイバックに限らず、グループの場を創造していくファシリテーターは空間と時間に関わる能力を深めることに興味があるのだと思いまし

た。

今回のクラスで何をやるのかはまだ具体的には決まっていますが、「面白い場」になると思います。

素直にそういえるのは、敢えて言えば、「僕が作る場」ではないからです。

「場」はすでに元から、非常な創造性そのものなので、「面白いもの」になろうとする大きな川の流れのような勢いを僕がせき止めなければ、我々に必要なものが自然にあふれてくるようになっています。

非構成的なファシリテーターが非指示的で何もしないように見えるのは、その代わりに手足をその創造性の流れにつけてともに流れているからであり、プレイバックシアターのコンダクターも、劇場や舞台の空気の中に自らを浸しつつ場を整えていく祭司的（創造性と人々の橋渡しをするという意味で）役割をとるのだと思います。

そうすると、WS やクラスも時空と舞台構成を使った作品創造なんですね。

主催者や講師、事務局がコラボレーションして作る作品世界に参加者は参入することになるわけです。

建築家にとっては家やビルをや庭などを創るすべての行為が作品のクリエイションとなります。

一つ一つ天塩をかけた、作り手の心のこもった作品世界と出会いながら生きて、生活していくのが我々の人生であり、それらの素材を自ら選び取りながら自分の人生の「生き様」という作品をクリエイトしている我々なのではないでしょうか。

秋の大神子の自然の中でコンタクト・ダンスもしてみたいなー。

場所とコンタクトした作品作りもしてみたい。

プレイバックシアターやダンスが未経験であってもまったく OK です。

もし体のご不自由であっても一緒に「オドル」ことができます。

楽しみにお待ちしております^^

はしもとくにひこ

～プレイバックシアターの場には、質の異なる空間が現れます。

ひとつは舞台空間で、ここにはありとあらゆるエネルギーが現れる可能性があります。

トランスパーソナルな空間と言ってよいでしょう。

もう一つは観客席と呼ばれる空間で、ここにいる人々の多くは、日常生活の意識をそのまま持ち込んで座っ

ています。

さらにテラー（ストーリーの語り手）のための空間があります。

テラーはこの席で、自分の全人生、過去、現在、未来、  
精神世界、物質世界を行き来しながら自分の物語を語ります。  
コンダクターはこの 3 つの空間に橋を架けるような役割を果たします。

今回のクラスでは、日常意識の場とは異なった場空間を準備し、  
その狭間に立って扉の役割を果たす「コンダクター」について考えてみましょう。

25日ビヨンド・ザ・フェンス、7月1日ダンスとPTクラスのご案内 2009/06/13 00:53

皆様。

今回はダンスとPTクラス参加者、徳島大神子クラス参加者の感想文の一部をご紹介します。  
洞察力のある文章からは、その場の具体的な動きさえ伝わってくるような気がしますね。どうぞ言葉のダンスをお楽しみくださいませ。

「ダンス、楽しいですね～

今回もつれづれな感想です。  
自分にとっての備忘録でもあります。

よかったら、シェアしてください。m( )m  
よろしくお願いします。

昼のクラスで、耳にした「内側から出てくるオドリ(ダンス)」。  
夜のクラスで、耳にした  
「日常と非日常、内と外を出入りする感覚＝視力」。  
このふたつの言葉が、リンクしながら、いま、残像となって、在ります。

カラダの奥から出てくる一見奇妙な動きは、なぜほかの人と深く共振するんだろう？  
これは、いったい、なんなのだろう？

そのような動きは、内と外、心とカラダ、自他などの区別を、  
越えていくゲートのようで・・・。

そのゲートの先の世界＝場は、  
さっきまでいた日常の場とは、どんな関係があるのか？

形態は違うけれど、  
非構成のエンカウンターグループのプロセスにとてもよく似ているようで。

謎につつまれた命題は、もう少しそのままにしておいて、  
今後のクラスに、自分の身をおいてみたいとおもいます。

そして、もう1点。  
幼い頃、叔父に連れられて、海でよく、冒険をしたのですが、  
なんども危険な目にあって、今度こそヤバイ・・・(笑)の連続でした。が！  
なのに、私はそれがとても楽しくて、いつも叔父を真似ては、そばを離れませんでした。

日常の感覚だけでは向かえないあのスリルと、微細なシグナルを  
キャッチするあの感覚。

カラダの奥深いところから出てくる微細な動きに、カラダをそのままゆだねて動くのと、  
これもどこか・・・、似ているように感じています。

深く共振する「場」と、日常の「場」を、行き来しながら、  
これからも、そんな？や、こんな！の『視力』を、  
深めていけたらと、おもいます。

.....

疑問符？と感嘆符！の入り混じった・・・  
記録にとどめておきたい、いくつかでした。

シェアをありがとうございました(\*^-^\*)

次回の昼も夜もとても楽しみです。」

-----

「参加者が集まり、場ができ、そこで出てくるもの、

浮き上がってくるもの、表出してくる輪廻する物語。

この視点が得られたので、プレイバック、ミニカン、ベーシック・エンカウンター・・・そして日常も、・・・それらは、それぞれの物語が起きている時空間、各人の輪廻する物語が絡みあっている場に思える・・・驚くべきことだな。

こういう視点を得られると、生きていて、それぞれの物語を体験したり、見たりすることができることに喜びを感じ、そしてそういう体験を出来ることに感謝が生まれる。そしてとても豊になった気持ちがする。」

～徳島クラスより。

徳島・自分を「置いて」みる・プレイバックシアターワークショップのお知らせ。2009/05/28 11:49

皆様へ。

来る6月5日から下記の要領でプレイバックシアターのワークショップを開催します。

ジョン・ケージという現代音楽家が「4分33秒」という作品を提示したとき、聴衆はどう反応しているのか分からず混乱し、動揺した、といえます。それもそうですね。

4分33秒の間、ピアノの前に座ったジョンケージは、ピアノのふたを開けただけで、ただ沈黙していたのですから。。

そこには豊穡な、そしてカオスへ、深遠へと向かって開かれた4分33秒の空間がありました。

その空間では、そこにあるすべての音が、生きて、「踊って」いたのだと言えるでしょう。

先日東京の友人が、ミニカウンセリングのケース記録を、「15分文庫」として1冊の本の形に作品化してくださいました。

彼の営みを通じて、カウンセリングの15分間だと思っていたものは、二人の人間と、二人が生み出した「場」に浸透する周囲の音や光の圧倒的な自然の演出が織り成す芸術作品の15分間であるということを、はっきりと見せていただきました。

僕自身にとっても、自分の居所が、セラピーから芸術へと大きくシフトしていることを感じた貴重な出来事でした。

芸術は、この日常に連続して起こっているように見える「見慣れた」出来事の流りにあえて枠をつけ、

結界としての時空間（舞台）を作り、日常のいわば「後ろ」にある世界を垣間見せる「術」であると思います。

見回してみると、いつの間にか僕の周りには、そのような「後ろ」の世界へのゲートとなる「場」を生み出す仕事に人生をかける仲間達の姿が見えています。

僕にとっては本当に、うれしく、頼もしい姿です。

彼らの中には、名のある人もいれば無名の人もいますが、名称や肩書きは問題ではありません。

彼らが彼ら自身であることによって毎瞬間に振動し、放出している「働き」こそ見るべきものであると思います。

「彼ら」という「出来事」に出会えたことは、僕の人生の大きな喜びです。

与えられた場所に、ただ自分のからだひとつ、こころひとつを、ていねいに、真剣に、置いてみましょう。

すると「働き」が始まります。

今回は徳島・大神子海岸に「置いて」見ます。

楽しいですね^^

5/21：自分流リラックスダンスとプレイバックシアターの基礎 2009/05/18 05:23

仲間と一緒に  
あるいは一人で  
互いに評価したり、裁いたりすることなく  
ココロとカラダのおも向くままに  
暖かい場の中で「動くこと」

それを「自分流ダンス」と呼びたいと思います。

それはそのままプレイバックシアター（「癒しの劇場」と呼ばれる即興表現芸術）の場へと自然につながっていくことができます。

いつでも気軽にオドリに来ることができる小さな場所。  
そこから、人間の深い感情や人生の物語に感応して表現するプレイバックシアターの営みまでオドリながら進んでいきます。

この「オドル」流れの中で、高槻市の仲間を中心にプレイバックシアターの劇団を一つ作ります。

ということで・・・

ただオドリたいだけの人

プレイバックシアターに親しみたい人

劇団活動に関心のある人

なんとなく居場所や仲間がほしい人。。

どなたでも大歓迎です。お気軽にのぞいてみてください。

### ●プレイバックシアター とは・・・

プレイバックシアターは即興による舞台芸術です。ここでいう舞台とは、高密度のエネルギーがセットされたトランスパーソナルな場・空間のことです。参加者はアクターとなって、テラー（自分のお話を語る人）の物語を演じるため舞台上に立ち、今聴いたばかりのお話にもとづいて自由に表現します。すると、「演技力」とは関わりなく、アクターの実存的なエネルギーが発動して、ステージ上に真剣で誠実な即興表現のフィールドが生まれます。テラーはこのフィールド上に現れる自分自身の人生を見つめることで、新鮮な気づきや生きていく力を得ることができます。演じるということがまったく初めての方でも、いつのまにか表現できてしまう楽しい方法です。

### プレイバックシアターの研究 in 徳島・大神子クラスのご案内 2009/05/14 11:58

皆様へ

#### プレイバックシアターの研究⑤ 傾聴レッスン2

「テラーが語ることの意味 ストーリーの深層 輪廻する物語」と題してのプレイバックシアター研究クラスのご案内です。

僕にとっては、プレイバックシアターという「場」で起こる出来事を素材にして、自由に、心の趣くままに、テーマに触発された洞察を語れる幸せな機会です。

参加者の皆さんとプレイバックシアターを楽しむことはそのまま互いの人生や、人間観について深く交流することとなります。

「芸術」とは何か、という興味深い問いについてもかなり視界がはっきりしてきました。

美しい大神子の自然環境の中で、語り合しましょう。

橋本さん（くにちゃん）からのひとこと

「ダンスや演劇の方とご一緒にプレイバックシアターをするとき、リスニングに関して気づくことがあります。

それはテラーの言葉を聞いたとき、自分の解釈を加えて強く表現しようとする傾向です。

これは舞台人であるなら、仕方のないことかもしれません。その表現の冴えを、観客や批評家は見るわけですから。

しかしプレイバックシアターはエンターテインメントではなく、人間やコミュニティの変容に関わる儀式的芸術ですので、

リスニングはトランスパーソナルな質を持たねばなりません。

つまり、「自分が聞いたことを表現する」のではなく、聞く行為を通じて自分から離れ、「聞いた言葉（相手）になって表現する」ことが可能になるようなリスニングが必要なのです。

緑豊かな6月の大神子クラスではこのようなリスニングについてさらに探究していきましょう。」

#### 第7回福岡プレイバックシアターワークショップのお知らせ 2009/05/14 11:50

皆様。

一気に暑くなってきましたね。

先週末訪れていた佐賀県では、たった一日で小学生や中学生を含むプレイバックチームができ、さっそくお客様の前で公演をしました。

生死にまつわる深いストーリーを、真剣に、誠実に演じていく彼らを見てみると、人間って、普通の人々って、生まれつき表現の力や共感の力を持った強く頼もしい存在なんだ、と感心してしまいます。

この公演の成功に大いに気をよくした佐賀のリーダー「ゆうちゃん」は、重要文化財・佐賀城の大広間を借りてプレイバックシアターをしてみたいと意気盛んです。

常に海外の新文化に触れて歴史上重要な役割を果たしてきた佐賀県の人々、

今まで知らなかった佐賀の人々の人情や文化、強い情熱に触れて、僕もなんだかフルフルと大志を抱いて帰ってきました。

そして、佐賀の土地で連続してプレイバックシアターです！！

すごいですね。^^

SAGA、さが！ ぜひおいでくださいませ。

皆様。

「プレイバックシアターの場の中で、変容し始めた「自然」と呼ばれる形態たち。。」

と以前のご案内で書かせていただきました。

先日清里で開催された、ファシリテーションを支える人間観について探求する『フォーラムg』。

100名近くの参加者と面白いゲストの方々に出会い、刺激とインスピレーションを受けました。

なかでも大いに意気投合した同志社女子大の上田信行先生は、  
「人間は変わりません。場が変容するんです」と。

その軽やかな断言は、僕をととても楽しい気持ちにさせてくれました。

話の通じ合う仲間との語らいは本当に心躍る、幸せな経験ですね^^

さて、再び礼文島へのご案内です。

おそらく日本最北の「場」での開催となるプレイバックシアター儀礼を  
是非実験してみたいと思います。

プレイバックシアターの生み出す「場」には、その土地に本来あった「場」の力が  
流れ込み、重なってくるような印象があります。  
先日の奄美大島ではその力を「土地神」と呼ぶことができるのだと知りました。

とすると、プレイバックシアターの祭儀においては、生きている人と人の交流のみならず、  
「場」と「場」の重なり合いが起こっているのかもしれない。

その重なった「場」に姿を現し始める「もの」があります。

それはいったい「なにもの」なのでしょう？

ワクワクしますね^^

若干名の追加募集を行いますのでお気持ちのある方はご連絡くださいませ。

極北の海に浮かぶ大自然の島でハイキングをし、

ホッケやウニをお腹いっぱい食べて、

日本の端っこから「すべてを」振り返ってみましょう。^^

7/10：第17回 プレイバックシアターワークショップ in 礼文 2009/04/15 17:12

皆様。

一昨日、北海道美瑛町の隠れ家的魅力を持つペンション薫風舎でのプレイバックシアターWS が終わりました。会場となったペンションの居間からは180度の視界で十勝岳連峰が見えます。

夕刻、雪を頂く十勝岳から厳かに昇ってくる大きな明るいまるのお月さまは大阪では感じることでできない存在感を持った「何か」でした。その月を仰ぎながら行うプレイバックシアターは、おのずと芸術の場からシャーマニクな儀式の場へと変容していきます。

そこでは、月の光が隠された人生の秘密を語り、小川を流れる雪解けの水は、人と人とを結びつける音を立てて騒ぎ始めます。

プレイバックシアターの場の中で、変容し始めた「自然」と呼ばれる形態たち。。

参加者の一人ひとりもそれに伴って雰囲気が変わっていきます。

語り手（テラー）として聞かせてくださるお一人お一人の物語に耳を傾け、そのお話がプレイバックシアターとして再現される様子を見てみると、

人が普通の人であることをやめ、知恵に導かれて生きる単独者としての威厳を漂わせ始める有様を目撃することができます。

その存在感は、十勝岳やお月様と同じ重さをもって見る者に迫ってきます。

大自然の中で執り行うプレイバックシアターという祭儀に惹かれてやまない所以です。

そして、今度は礼文島です。

極北の海に浮かぶ大自然の島です。

ホッケやうにが日本一おいしいです。

宿の名も「ペンションうーに一」です。

ご一緒いたしましょう^^

3/27-29：群馬でプレイバックシアターワークショップ 2009/03/17 01:51

皆様へ。

春・3月下旬に群馬県の素敵な会場でプレイバックシアターワークショップを行います。

現象学的地理学という分野があって、「場」とか「場作り」とか、「場のファシリテート」などという言葉を使うことのある僕にとってはとても面白いものです。

また現象学的アプローチなどと言いながらミニカウンセリングの研修をしたり、個人カウンセリングをしている立場からも興味が尽きません。

その現象学的地理学のキーワードの一つに「トポフィリア」という言葉があります。

意味は人と環境や場所との情緒的な結びつきのこと。

我々はそこがたとえどんな場所であっても、生まれ育った場所に愛着を持ち、懐かしさを感じるといいます。

また命がけで何かを生き抜いた場所にもある種の愛着を持ちますね。

つまり命のやりとり、命（人生）が始まったり終わったりした場所と空間は、単に物質的な場所であることをやめ、我々の内面にある大切な感覚世界と重なってくるのでしょう。

そんな時、その場所は我々にとって「神聖な場所になった」と言います。

それは我々の内面の大切な領域が現れ、体験された場所という意味でもあるでしょう。

プレイバックシアターは、自分の人生を語ってくださる人がいるならば、どこにでも出かけていってステージを作り、アクターを出現させて、舞台を成立させます。

それは言語が違っていても可能です。タイやカンボジアではそれぞれの場所でそこに生きる人々の感情を表現するとき、日本人同士で行うのと同じ一体感、同じ共感、同じ敬意、同じ神聖さを見ることができます。

脚本の面白さや、人為的なメッセージを伝えるツールとしての舞台芸術ではなく、その時、その場所と空間に生きている人の命と人生の重みが現れ、その現れた場において尊厳と神聖さを再びまとうための儀式的、祝祭的な舞台芸術がプレイバックシアターです。

そのような舞台芸術であるので、プレイバックシアターのアクターは演技者であるよりも、語ってくださった方に自分の表現能力を捧げる一人の真剣な仲間であること、そして人間としてオーセンティック（本物）であることが求められるのですね。

さて、僕にとっての以上のようなプレイバックシアターという「現象」についての「解説」^^を読んでいただいております。

#### 4/17-19：奄美大島でのプレイバックシアターワークショップ 2009/03/17 01:44

皆様。

春4月、奄美大島でのプレイバックシアターワークショップのご案内です。

同行スタッフの坂巻司、田中聡両氏は、第一回カンボジア遠征メンバーです。

カンボジアやタイで交流を実現してきたオーシャンズスタイルでプレイバックシアターを通じた奄美の人々や奄美文化との出会いを試みます。

奄美の大自然へのトレッキング、そして人々が仰ぐ奄美のシャーマン、ユタ神さまとの会見、奄美で行われる初めてのプレイバックシアター。

奄美は僕の祖父母の故郷でもあり、今回のワークショップ開催には格別の思いを持っています。奄美は魅力的な島ですよ^^/

よろしければ是非ご一緒しましょう。

#### 4/10-12：旭川でプレイバックシアター 2009/02/04 02:04

皆様。

去年暮れの北海道・富良野でのペンション貸しきりプレイバックシアターWSは、おかげさまで大好評のうちに終了いたしました。

一面雪の世界にひとりぼつんとたたずむ美しいペンションでのプレイバックシアター。

出現するストーリーもごく自然に人生の深みへと達していきます。

ペンションを通り過ぎて、窓の外遠くの雪の畑を去っていくキタキツネの後姿。

この土地では何を見ても自分自身の人生の味わいとして自覚されます。

さて、気をよくした主催者は今度はまだ春の遠い4月の美瑛(ビエイ・写真家目白押しの美しい土地です!!)を狙ってまた面白いペンションに当たりを見つけました。

プレイバックシアターを知っている人も知らない人も、ダンサーでも役者さんでも、学校の先生でもお母さんでも、人生に迷っている人も悟りを開いた人も、すべての人に謹んでご案内したいと思います。

11/9：野舞台のたのしみ（復活祭！） 2008/11/06 08:02

皆様へ。

シアター・ザ・フェンスの今回の挑戦は、  
徳島唯一の「村」である実り豊かな佐那河内（さなごうち）村の  
嵯峨天一神社での野舞台公演です。  
桃イチゴで有名な佐那河内ですが、後を引き継ぐ生産者や住民減少に悩み、  
村の若い世代が立ち上がって活性化を図っています。

彼らが大切にしているのが、  
村に古くから伝承されている「名中」と呼ばれているコミュニティ。  
お互いに葬式や家の建築まで助け合ってたくましく生きていく連帯感は、  
大都会ではすでに失われている人間関係の文化です。

その緊密な村のコミュニティで、  
かつて華やかに旅芸人たちが芸術文化を発信していた「野舞台」の復活の試みを、  
プレイバックシアターで実験してみたいと思います。

当日はマスコミやメディアも入り、  
かなりにぎやかな「祭り」になる模様です。  
秋の一日、よろしければぜひご観覧くださいませ。

10/24：創造・表現・コミュニケーションワークショップ 2008/10/07 23:55

皆様へ。

台風一過、一気に秋になりましたね。  
さて、以下の通り、徳島でのプレイバックシアター研究クラスを準備しています。  
関心のある方は事務局までお気軽にお問い合わせください。

我々の日常の場世界から、実は人々が関心を向けてやまない異世界へのゲートとしてのプレイバックシアターの魅力を、丁寧に探求していきたいと思います。

自分自身と何かをつなぐ「ゲート」に関心のある方はどなたでもおいでくださいませ^^。

9/20:第14回プレイバックシアターワークショップ in 旭川 2008/08/10 00:04

皆様。

先日のビヨンド・ザ・フェンスへはたくさんの方々にご来場いただきました。

ありがとうございました。わずか 90 分ほどのパフォーマンスですが、毎回、脚色のない、人のありのままの生き様・物語がアクターの即興表現によって会場全体で分かち合われる情景を見ていると、ごく普通の生活を淡々と営んでいるように見える皆さんが、その深い心のうちに、大きな、真剣な問いを自らに問いながら生きておられる姿が見えてきます。

公演後に誰に対してもなく、深々と頭を垂れたいくなるような荘厳な感覚は、プレイバックシアターならではのものかもしれませんね。

ところで、今回のビヨンド・ザ・フェンスには、2005 年に日本ダンス評論賞第 1 席受賞の気鋭の舞台芸術評論家、ATL 主宰 かめだけいこ氏が訪ねてくださいました。透徹したまなざしでプレイバックシアターの本質を観察され、ユーモアを交えて素敵な文章を、氏のブログに書いてくださいました。よろしければぜひご覧くださいませ。

[http://blog.so-net.ne.jp/arts\\_and\\_theater\\_literacy/2008-07-12-6](http://blog.so-net.ne.jp/arts_and_theater_literacy/2008-07-12-6)

#### プレイバックシアターの研究 2008/06/06 15:11

皆様へ。お元気でしょうか。

来る 7 月 4 (金) 5 (土) 6 日 (日) は、徳島での「プレイバックシアターの研究」の第 2 回目、「グループ作りの基礎 1 ウォームアップ・リチュアルとエネルギーの場」が開催されます。

人間のあらゆる文化的な営みが成立するためには、その営みが現象するための『場』が必要です。それはエネルギーのフィールドのことですが、その場の質を指して我々は、「この場は暖かい」とか「ここは安心できる」などと表現します。

たとえばプレイバックシアターをはじめとして、人間の変容のために様々な技法が用いられていますが、その技法そのものが暖かかったり、安心できるわけではありません。技法は「人」ではないからです。

よく見れば、その方法を用いているその人自身が発信し、創り出している「場」の質やムードが目に見えない内実となって、プレイバックシアターやサイコドラマ、カウンセリングやレクリエーションといった「方法」が成立していることが分かります。

このことを、そのグループをリードする人のメタスキル（意識的なスキル・技術ではなく、内面的な態度に属するその人の影響力・働き）と呼びましょう。

ここで、人間の「変容」とは、ある人が周囲に発信し続けている「場の質」の変容である、と考えてみます。

するとプレイバックシアターは、我々が存在する上で、分かちがたく一体となっている「場」そのものに働きかけるための方法であるということになります。

この「場」の変容のために、無くてはならないプレイバックシアターの優れた構造が「リチュアル」と呼ばれている「作法」です。

「ウォームアップ」は心理・身体的な人間が安心して存在できる場の働きのことであり、「リチュアル」は人間に訪れようとしているトランス・パーソナルなエネルギー場の働きに対して付けられた名称です。

さて、それは本当でしょうか？

もしそれが事実なら、プレイバックシアターと人間の変容についての関係が、かなりすっきりと見えてきて面白いですね。

ご縁ある皆様とともに検証・研究してみたいと思います。

大神子でお目にかかりましょう。

5/31-6/1：興正寺プレイバックシアターWS 2008/04/22 22:41

皆様へ。

お元気でしょうか。

さて、おそらく今年はいよいよの興正寺プレイバックシアターWSの知らせです。今年の興正寺では以下のようなテーマを見つめるための場作りをしてみたいと思います。

プレイバックシアター（以下PT）においてよく見られる「テレ」現象について。

アクターがテラー（個人的なお話の語り手）によって選ばれ、テラーと強いつながりのある特定の実在の人物（たとえば家族の誰か）として舞台に立ったとき、実際には説明していないのにその人が本当に語った言葉や感じた感情を再現することがあります。

これをテレパシーやテレポートなどと同じ意味合いで「テレ」と呼ぶことがあります。

これはPTがリチュアル（儀式的な進め方）に基づいて行われたときには高い頻度で見られる現象であり、一般の演技方法論と一線を画するPT独特の演技（アクティング）論が接近しようとしているステージ上の重要な発見ですね。

しかし、個人と個人の社会的なコミュニケーションを超えた、「テレ」による瞬間的な情報の伝達は、サイコドラマやファミリーコンステレーションなどの心理療法のほか、心的エネルギーの集中によるステージ作りをする芸術的、宗教的アプローチでは広く見られる現象です。

PTの劇団であるシアター・ザ・フェンスのメンバーが最近発した興味深い問いがあります。

「共演しているアクターのオファー（テラーのストーリーをよりよく表現するためのアイデアの提案）が受け入れがたいときには拒否してもいいのでしょうか？」

アクターのアクティングが、いつ、どこからともなくやってくるテレによる情報も含むのだとしたら、我々はアクティングの良し悪しをいったいどこで判断するのでしょうか。

また、テレの存在とその超越的な働きを認識した上で行う「アクティング」とは、どんなアクティングなのでしょうか？

それは芸術や心理療法、瞑想、宗教などの領域と浸透しあう非物質的な「場（フィールド）」における行動の科学であると思います。

かつてプラトンはこう言ったそうです。

「空間は物質を創り出すだけではなく、揺すぶる。物質の方もその空間を揺すぶり返すのだ」

物質としての我々がステージ上において、まず空間に揺すぶられ、そしてその空間を揺すぶり返すとき、我々と空間との間に対話と関係性が成立するようです。

アクターが空間との対話によってテラーが現在生きているエネルギー状況を知ることができる、と仮定した時、アクター同士のオファーのやりとりには、空間（フィールド・磁場）という第3の要素が入ってきます。この第3の要素が、アクターの個人的自我（好き嫌い）を超えて、ステージ上で敬意を払われるべき重要な高次の情報であると考えてPTのアクティングを見てみましょう。

すると、リチュアルの進行によって「空間」からの“高次の”オファーを受け取り、複数のアクターの心身を通してながらどのように調和させて表現するか、という視点が生まれてきます。

PTの創始者ジョナサン・フォックスとお話したとき、彼は日本の禅画が好きだといい、PTと似ているといいました。

なぜそう思うんですか、と聞くと答えは「両方とも空間がたくさんあるんだ」ということでした。

彼の真意は分かりませんが、僕なりに、PTという祭事の生み出すフィールドの上に見えているものを、皆さんの心の視力をお借りして共有し深めていきたいと思います。

さまざまな念が集積した興正寺の大広間はPTの浄化力を発揮するにはよい実験の場であると思います。

PTが初めての方は特に歓迎いたします。

そのままの姿でお越しくださいませ。

皆様へ。

春の旭川でのプレイバックシアターWSのお知らせです。

主催の田淵久仁子氏は、プレイバックシアターのみならず、カウンセリング、エンカウンターグループ、ホメオパシーにも通じた達意の人です。以下のご案内の言葉を皆さんにお届けできますことをうれしく思っています。

### ご案内

皆さんこんにちは。旭川でのプレイバックシアターのワークショップも、今回で13回目を迎え、今年はテーマを設けて開催することにしました。

この度はコミュニケーションについて（感度を上げる）というテーマです。私たちは毎日、家族、職場、学校、友人等との関係のなかで生きています。この関係を生きるプロセスで、時にうまくいかない事に悩み、また、通じあえた瞬間には大きな喜びを感じながら生きています。

人生途上での悩みはさまざまですが、それらの悩みの多くは、他者とのコミュニケーションにまつわるものであることが多いのではないのでしょうか。

私たちは生まれてからこの方、言葉を獲得し、まわりの人や事物とのコミュニケーションをとりながら生きてきました。

コミュニケーションなしに生きることは不可能とっていいでしょう。

このところ、デートDVという恋人間の暴力が若年世代で頻発していることや、また、ちょっとしたことで爆発する大人が増えていることも、報告されています。日常生活に入り込んだ便利な通信手段としての携帯やパソコンなどの機器で、コミュニケーションの質に変化が生じていることが顕在化してきています。

誰にも強いストレスがかかっている現状で、ストレスを別のエネルギーに転換することや、コミュニケーション不全を変え、ひとりひとりのつながりを回復してゆく営みが求められているのではないのでしょうか。

私たちは、本来的には分断された存在ではないのです。

プレイバックシアターは人間の持つ表現力、創造性、コミュニケーションの能力の陶冶に大きな力をもつものです。

今回のワークショップでは、日常的なコミュニケーションで、何が伝わり、何を聴いているのかという基本的なことから、更にコミュニケーションという行為の根源にふれる体験になるような、そんな時間となることを目指しています。

きっと、ユニークで深く学びの多い時間になると確信しています。

興味をもたれた方、あるいは、人間関係に悩んでいる方、まったく初めての方も大歓迎です。  
皆様の参加をお待ちしています。

2008年3月1日

シアター・Zero 代表 田淵 久仁子

2/29-3/2 : プレイバック&エンカウンター 2008/02/03 00:32

皆様へ。

プレイバックシアターとエンカウンターグループのコラボワークショップが佐賀県で開催されますのでご案内します。

一見、両極のアプローチに見えるプレイバックとエンカウンターですが、体と心を十分浸して二つのメソッドを味わってみると、人間への敬意に満ちた神聖な場に向かおうとする同じ潮流から生まれた兄弟のようなグループアプローチであることが分かります。

物理的に近接した形でのプレイバックシアターとエンカウンターグループの並行開催は初めての試みだと思えます。

4/5~2010年3月 : プレイバックシアター 2008/02/02 01:05

皆様へ。

徳島の新生劇団あわ's プレイバックシアターの呼びかけに応じて、3団体共催で2年間にわたるプレイバックシアターの研究コースを行うことになりました。

このコースでは、奥深いプレイバックシアターの世界への一つの切り口として、「プレイバックシアター現象」を具体的に、また実験的に提示し、参加された方々と体験を共有します。

普段我々が生活している生活の場において、プレイバックシアターと呼ばれる儀式的な表現行為を行った時、我々の日常性にいったい何が起こるのでしょうか。

僕にとってプレイバックシアターは抗えぬ魅力を持った冒険への扉であり、その向こうには広大な未知のエネルギードラマが待ち受けています。

徳島という辺境（?笑）の地での開催となりますので、学習に無理のない適切な人数で、地域性豊かな探究の場になればいいと思います。

会場は美しい大神子（おおみこ）海岸の砂浜から徒歩10秒の場所にあり、波の音に身を洗われながらの研究クラスとなります。

ご縁ある方々と徳島の地でお目にかかれますことを心から楽しみにしております。

**12/15-16 : 興正寺プレイバックシアターWS 2007/11/19 16:09**

皆様へ。

寒くなってきましたね。お元気でしょうか。

来月の12月15, 16日(土、日)に

第32回興正寺プレイバックシアターWSを開催します。

興正寺の大広間でのプレイバックシアターは久しぶりですね。

参加される方々の人生の輪郭がくっきりと伝わってくる時、そのまま私も自分自身の「生きていること」の輪郭を感じ取ることができるようです。

輪郭がはっきり見えるのは、その方の存在（そこにいるということ）の明るさ（光度）が増すからですね。

2007年の最後の月に、真宗興正寺派総本山の聞法の間でのプレイバックシアターをご一緒いたしましょう。

**10/27-28 : 第5回福岡プレイバックシアターワークショップ 2007/10/17 00:33**

皆様へ。

第5回福岡プレイバックシアターワークショップ、最終のご案内です。

会場は、福岡に隣接する佐賀県基山町の洗心寮研修センターです。

おかげさまで今回も福岡、佐賀をはじめ長崎や富山、広島と各地からの仲間を得て開催が迫っています。

友人のマイムのダンサーさんも来られる予定ですので、もしかしたらちょっぴり教えていただけるかも（＾＾）

よろしければこの機会にぜひお越しくださいませ。

**10/27-28 : 福岡プレイバックシアターワークショップ 2007/09/20 16:57**

皆様へ。残暑が厳しいですがお元気でしょうか。

第5回福岡プレイバックシアターワークショップのご案内です。

会場は、福岡に隣接する佐賀県基山町の洗心寮研修センターです。

前は九州や関西だけでなく、鳥取や北海道からも参加者を得て、豊かな時間を過ごすことができました。とくに会場を提供してくださっている調（しらべ）氏のご家族が持ち込む芳醇な九州の地酒は、お酒好きの参加者をうならせたのでした。今回も楽しみです。

よろしければぜひおいでくださいませ。

10/6-8 : プレイバックシアター 2007/08/22 19:39

皆様へ。 橋本です。  
ただただ、暑いですね。  
お元気でしょうか。

来る 10 月 6 日から 8 日まで横浜でプレイバックシアターのクラスを担当します。スクール・オブ・プレイバックシアター日本校の正式なクラスであり、卒業に要する単位の一部として認定されます。

僕に与えられたテーマは以下の単元です。

良い機会なので、プレイバックシアターのトランスパーソナルな機能、すなわちシャーマン機能を射程に置いて、ウォームアップのスピリチュアルな側面について、参加者の方々と経験や知恵を分かち合いながら探求したいと思います。

ご関心のある方は、下記の宗像佳代までお問い合わせ、お申し込みくださいませ。

お目にかかれるご縁を心より楽しみにしております。

#### ● 「ゲーム&ウォームアップ」

橋本久仁彦 10月6日～8日 横浜 ウィリング横浜

「ウォームアップ」という言葉は、心身を使った体験学習やワークショップでは頻繁に使われる名称です。一般的にはアイスブレイキングなどの言葉と並列的に考えられており、体のストレッチやゲーム、簡単なエクササイズをその内容としています。

一方、リチュアル通りに進行しているプレイバックシアター(以下 PT) は、テラーやアクター、オーディエンスが、安全な雰囲気を守られながら、過去・現在・未来が融合したトランスパーソナルな物語世界、すなわち変性意識状態に参入していく過程を辿ります。

そのような意識変容のツールとして PT を捉えるとき、PT におけるウォームアップやクールダウンといった

言葉はどんな意味を持つことになるのでしょうか。

このクラスでは、楽しいウォームアップゲームの適切な使い方を学ぶだけにとどまらず、場の位相転換やエネルギー密度の変化といった視点から、PTにおけるウォームアップの本質的な側面に接近することを目指します。

ご縁ある皆様とお目にかかれまことを心より楽しみにしています。

**8/25-26 : プレイバックシアター 体験ワークショップ 2007/08/12 21:13**

皆様へ。

昨日滋賀でのコンタクト・インプロ・ミーティング・JAPAN が終わり、余韻に浸っているところです。  
舞台芸術を愛する人々やすばらしいダンサーやアーティストたちと過ごす時間は僕にとっては至福のひと時でした。

異なるフィールドで生きてきた者同士が互いに敬意を持ち、交流することまさにコンタクトすることは、意義深いことはもちろんですが、とにかく楽しいです。  
自分が見てこなかった新しい側面が拓かれていく快感があります。

本当に良いご縁をいただいた事を感謝しています。

**4/29-30 : 興正寺プレイバックシアターWS 2007/04/12 22:35**

皆様へ。

今月29, 30日(日、月祝)に  
第31回興正寺プレイバックシアターWSを開催します。

今回は「プレイバック meets コンタクト・サード・ステージ」と名づけて、ゲスト講師に倉田真紀子さんをお招きし、たっぷり時間をとってコンタクトとプレイバックのコラボレーションを楽しみたいと思います。

倉田さんは明るくて親しみやすい方で、ダンスの苦手な方や初心者の方も気楽に楽しんでいただけたらと思います。どうぞ遠慮なくお気軽にご参加ください。

2/24,25 : 興正寺プレイバックシアターWS 2007/02/02 22:04

2月24, 25日(土、日)は、  
第30回興正寺プレイバックシアターWSです。

今回はカンボジアから帰国後クールダウン中のオーシャンズメンバーとシアター・ザ・フェンスのメンバーが合同参加し、それぞれの持ち味を発揮して皆さんのストーリーをプレイバックしてくれます。

プレイバックのワークに「自分が大切にしている物になる」というレッスンがあります。

我々日本人は、ネックレスとか愛車とか愛用の腕時計とかを題材にすることが多いのですが、2月初頭にオーシャンズチームが訪ねるカンボジア・プレイベン州リング村の青年たちにこの質問をすると、「大切な物」は村の「山」や「川」、そして「畑」と答えるそうです。

なんだか素敵な答えですね(^^)

アンコールワットの霊気を受け、リング村の子供たちの無邪気な魂に触れたオーシャンズチームがいったいどんなエネルギーを持ち帰ってくるのか、乞う御期待です。

またアブストラクト・アクティングに磨きをかけているシアターザ・フェンスの表現にも大いに御期待ください。

初めての方もどうぞお気軽に御参加くださいませ。

3/2-4 : プレイバックシアターワークショップ in 旭川 2007/01/23 17:13

皆様へ。

「第11回プレイバックシアターワークショップ in 旭川」

を御案内いたします。

チャーミングな女性アクターの揃ったシアター・ゼロ(^^)の公演も行われます。

身も凍る最果ての地、旭川で行われる熱いワークショップです。是非一度お越しくださいませ。

お酒がおいしいですよ^^。

1/27-28 : 興正寺プレイバックシアターWS 2007/01/16 17:27

1月27・28日(土、日)は第29回興正寺プレイバックシアターWSです。

今回は「プレイバック meets コンタクト・セカンド・ステージ」と名づけて、去年9月の第1弾に引き続き、

プレイバックシアターとコンタクト・インプロビゼーションを連続して体験できる機会になっています。

コンタクトのリードは坂本公成さん、森裕子さん。プレイバックシアターは橋本が担当します。

お二人のダンス・アプローチは、それぞれ違った個性を持ちながらも、物質的・肉体的なコンタクトから非物質的・精神的なコンタクトまでを射程に含む非常に懐の深いボディワークであると思います。

私の専門であるカウンセリングでは、思考・感情・感覚・存在の順で相手や自分のありのままの姿に「コンタクト」していくわけですが、坂本さん・森さんがかもし出す場の雰囲気とそのレッスンのプロセスでは、我々の肉体とその動きから感覚、存在に向かってコンタクトが始まるように思われます。

人間本来の「気持ちの良いあり方」へのアプローチとして、プレイバックシアターとコンタクト・インプロの相性の良さを是非感じてみてください。

ともあれ、コンタクトのお二人の息の合ったリードで進むセッションは理屈抜きでとても楽しいものです。初心の方大歓迎です。是非一度御参加くださいませ。

**10/15 : プレイバックシアター 2006/09/23 08:50 (吉橋注 ; 橋本さんの文章でしょうか?)**

グループパレットは、知的なハンディキャップをもつ女性と共に楽しく余暇を過ごそうと活動しているグループです。

今回私たちがお届けするのは、最近ワークショップや医療や福祉、教育の場で活用されている『プレイバックシアター』。

プレイバックシアターとは<独創的な即興演劇>参加者が自分の体験したできごとを語る⇒すぐに即興劇として演じる大切な思い出が、仲間たちによってその場で即興に再現され、観客として見守る。一緒に、楽しんでその場を創っていくうちに「聴く」力、「支えあう」力もつく。

自分と相手の価値を見つめる場である「プレイバックシアター」をぜひ体験してみませんか。

**9/2-3 : 興正寺プレイバックシアターWS 2006/08/25 15:15**

来る9月2・3日(土、日)は、プレイバックシアターを通じて「我々はどのようにつながっていくのか」というテーマについて考えてみましょう。

我々自身の中心に存在する「スピリット」(本質)が、この物質的な人生を生きる我々に対して本当に望んでいるのはどんな生き方なのでしょう。

我々が本当に体験したかったことは何だったのでしょうか。

前回参加のオーシャンズメンバーからのメールを紹介します。

「ぼくは前回の興正寺の最初のチェックインミーティングのときに、「いま、人生の壁にぶち当たっていて・・・」といったことを話したのですが、みえている風景がだいぶ変わってきたのです。

どう変わったかという、人生に壁などなく、もし、人生に 壁があるのだとしたらそれは自分自身がつくりだした砂漠の蜃気楼みたいなものなのだ、と気づいたのです。

危なく、自分の人生の歩みを途中でストップさせてしまうところでした。そして少しずつではありますが、いまここの風景がみえるようになってきました。少しだけ自分から自由になれた気がします。

それがみえるようになると、不思議とエネルギーが満ちてきます。なんか自分がここにいる実感が湧いてくるのです。

オーシャンズは特定のハコ（場所、事務所）を持ちません。でもメンバー1人1人から発せられるエネルギーがオーシャンズというグループをビルド・アップしていくんだとおもっています。

それは目には見えないけれど、エネルギーでできた建物を建築しているような感じです。

つまり、特定の既存のハコはないけれども、たしかに感じることのできる、メンバー1人1人のための建物、場所がオーシャンズなのかも知れません。そしてそのプロセスはもう始まっているのですね。

あ、それってまさにチームワークですね。（いまこの文章書いてて気づきました。笑。）

何かの目標に向かってみんなで均質化、集団化していくチームワークではなく、メンバーそれぞれの在り方が逆にチームをつくっていくようなチームワークです。

その可能性は無限だし、だからこそわくわく、どきどきします。」

プレイバックシアターは参加される皆さんの真剣なエネルギーによって そのつど建設される神聖な寺院のようなものだと思います。

古来より真実を求める無数の人々が興正寺の道場で聴聞を重ねてきました。本気で泣き、怒り、そして笑って存在の地平を越えていきました。

その同じ大広間で、尽きることなく再臨する「今・ここ」のエネルギーがプレイバックシアターを形作りま

す。

まったく初めての方も、何度も参加している方も、この空間の中ではともに「一味」となり、概念ではない

「つながり」の味覚を楽しむことができますでしょう。

ご縁のある方々の御参集をお待ちしています。

---

以上